

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	スーパー（経営者） 衣料品専門店（総務担当） 家電量販店（経営者） 家電量販店（総務担当） 家電量販店（企画担当） スナック（経営者） 都市型ホテル（副支配人） 旅行代理店（従業員） ゴルフ場（従業員） 住宅販売会社（従業員） 住宅販売会社（従業員）	お客様の様子 来客数の動き 販売量の動き 販売量の動き 販売量の動き お客様の様子 販売量の動き 販売量の動き 来客数の動き お客様の様子 販売量の動き	・総額表示導入等による抵抗感がやや薄れてきた。 ・ミセス婦人服売上が前年同月を上回り、バーゲンの客入りも前年より増加している。呉服についても、売上、来客数ともに前年を上回った。 ・展示会での売上はあまり伸びなかったものの、最近の暑さからエアコンの売行きが良くなった。 ・デジタル家電の好調さが、全体の消費に良い影響を与えている。 ・暑かったためエアコンの売行きが良く、また8月のオリンピックに向けてテレビの動きも良い。一方、冷蔵庫、洗濯機等は売れていない。全体としてはやや良いという状況である。 ・客に来店のご案内をすると、前向きな返事が返ってくることが多くなってきた。また、仕事も以前に比べると少しずつ忙しくなっている様子がうかがえる。 ・客単価は低いが、販売量は非常に活発になっている。 ・海外旅行の売上は増加しており、人員ベースでも前年、前々年を上回っているが、国内旅行に関しては、来客数は増えているものの、売上は前年並みである。 ・来客数が前年に比べ1割ほど増えた。60歳以上のシニアの利用が増えている。 ・土地を買う動きが活発である。年内の入居が多く、住宅ローン減税が影響している。 ・3月以降、契約棟数が前月及び前年を上回っている。ただし、絶対棟数は微増である。
	変わらない	一般小売店〔青果〕（店長） 一般小売店〔鮮魚〕（店員） 一般小売店〔茶〕（店長） 百貨店（売場主任） 百貨店（営業担当） 百貨店（営業担当） 百貨店（営業企画担当） スーパー（店長） スーパー（店長） スーパー（店長） スーパー（総務担当） コンビニ（経営者） コンビニ（エリア担当）	単価の動き 来客数の動き 来客数の動き お客様の様子 お客様の様子 それ以外 来客数の動き 単価の動き 販売量の動き 販売量の動き 単価の動き お客様の様子 単価の動き	・単価の高い商品の動きが少し鈍くなってきた。 ・とにかく客が少なく、来店頻度が前年比20～25%減と急激に落ちている。 ・ここ2、3年来客数が激減している。今月に関しても、売上そのものは変わらないが、景気回復の兆しはみられない。 ・まとめ買いをする客が少ない。 ・来客数は前年を上回っているが、レジ客数、買上単価は前年並みである。新規導入のブランドを除くと、買上単価は前年割れである。来店客の購入率も落ちており、買い控え傾向がみられる。また、インターネット先行受付の中元ギフトも、選挙の影響で伸び悩んでいる。 ・店頭での売上は前年をやや上回り、持ち直し傾向にある。 ・福岡市や郊外のアウトレット店への流出が加速しており、地域間競争が激化している。 ・来客数は変わらないが、客単価が2～3%落ちている。 ・食料品は仕掛けをすることでそこそこ客が入るが、衣料品が厳しく、全般的には厳しい状況である。 ・客は余分なものは一切買わず、必要なものだけを買う。競合各社を含め厳しい。 ・まだまだ客の動きが先月、先々月に比較して良くなっていない。来客数についてもほぼ横ばいである。 ・飲食街に4店舗あるコンビニのうちの1店舗については、以前は客に連れられてまとめ買いをするような客が目立っていたが、最近はそういった行動がみられなくなった。また、大きな店が閉店し、従業員の数が減っているという悪い状況が依然として続いている。 ・おにぎりやカップ麺等、低単価と低単価の組み合わせでの販売動向が目立つ。

	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・総合すると、売上は前年比91.5%となった。パンが3か月前比が13.5%減、弁当が同1.2%減である。前月比でもパンが2%減、弁当が同2.7%減となった。依然として前年比をクリアできない。
	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・近郊に大型商業施設がオープンし、来客数が減少した。以前にアウトレットモールがオープンしたときは土日の来店数が減ったが、今回は平日も含めて減少した。来店される客は40～50歳代の方が多くなり、年齢層が高くなった。
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・今月はセール待ちをしていた客が多いほか、割引のサービスも行っている。安くなったからといって買上点数が増えるわけではない。また、安くなったからこそ買いに来る客は、普段は一切来店しない。普段買わない方が買うため販売量は若干増えているが、利益率は上がらず、景気は変わらない。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・安く、必要性がある場合は購入するが、そうでない場合は買い控えるという傾向が来客数に表れている。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・修理の客が多く、車を購入する目的で来る客は少ない。
	その他専門店 〔医薬品〕（従業員）	単価の動き	・来客数は増加傾向にあるが、客単価はそのままである。総額表示の影響が続いている。
	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・ガソリンは、4月の総額表示、仕入れ値の上昇等があったが、やっと小売金額への転嫁が追いついた。
	その他小売〔雑貨卸〕（総務担当）	販売量の動き	・消費マインドが上向いていると言われているが、原材料販売という部門については、なかなか実感が沸かないし、数字にも表れていない。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・売上・来客数ともに昨年とほぼ同じ水準であり、下げ止まっている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・若干人も動くようになってきたが、単価のばらつきがある。客は安いところを選択しているようで、客数は若干増えてはいるが、景気は変わっていない。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・県内では大手競合による寡占化が進んでいるため、思うように売上が伸びない。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・6月はもともとオフシーズンであるが、特にゴルフ・レジャーの動きがよくない。プライダは好調である。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設については、入園者が前年比で30%以上増えている。好天に加え、新幹線効果も続いている。
	ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・客単価が更に下落してきた。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・自治体の工事の入札に2件参加したが、各物件とも6社が参加し、最低入札価格でしか落ちなかった。大変厳しい状況である。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・家を建てる金額が昨年より安くなっている。景気はあまり良くなっていない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・単価の安いものについても、なかなか買わない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街への来街者が日中はほとんどいない。だんだん人が減っている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・福岡市天神地区の百貨店売上は、依然として前年比減少傾向である。郊外型の大型商業施設のオープンも影響している。
	百貨店（業務担当）	来客数の動き	・来客数の減少が大きく、夏物衣料、季節商材への購買意欲も減退している。売上も大幅に減少している。
	スーパー（店長）	単価の動き	・父の日セールにより来客数はかなり回復したが、客単価が下がっている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・総額表示導入以降、客単価が著しく落ちている。また、1人当たりの買上点数も落ちている。
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・4月以降、総額表示導入に伴う実質上の値下げや、低価格商材への購買動向等による客単価の下落が、依然として売上減少の主要因となっている。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・夏場にかけてどうしても来客数が少ないが、日ごろの来客数の減少が著しい。
	一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・記念イベントで行っていた特別コースの値段を1,500円から元の金額1,890円に戻したとたん、見事に来店客数が減少した。

		観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊・宴会・レストランすべてにおいて、3か月前、前年比ともに大幅に下落している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・スナックや焼き鳥屋の営業を辞める店が今月に入ってかなり出てきている。テナント募集の張り紙をしている店が結構出ている。
	悪くなっている	百貨店(営業担当)	競争相手の様子	・福岡市近郊で商業施設が増えており、消費そのものは大きく変わっていないが、そのパイの奪い合いが顕著に表れている。
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・近隣の店舗も含め、今月上旬は前年比86~87%減となった。中旬でやっと同90%減、下旬で同94~95%減となったが、夏物プロパー商品は売れていない。特に販売数量、販売額がかなり落ちている。
		衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・依然として売上の減少が続いており、手を尽くしてはいるが退潮を止めがたい。
		乗用車販売店(管理担当)	単価の動き	・来客数、新車販売台数ともに変わらないが、高額車の売行きが厳しい。販売台数に変化はないが、単価が大幅に下がっている。
企業 動向 関連	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・大型商業施設の受注もあり、受注状況は上向いている。ただ、福岡一極集中はますます加速しており、九州各県の事業所の売上は、福岡だけが前年を上回り、他県の事業所は全て減少している。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量から判断すると、景気は良くなっており、設備投資や求人を経営的に考えることができるようになってきた。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・一部の客先では9月まで受注が残っている。仕事が前倒しに発注されている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・焼酎メーカー10社ほどが、積極的に設備投資を行い始めた。業績についても増収増益である。将来性を見込んだ投資であり、景気は良くなっている。
	変わらない	食料品製造業(専務)	取引先の様子	・取引先のスーパーによって格差がある。地場スーパーでは、店舗を拡大するところがある一方、閉店するところも出てきている。街中にある店舗は、郊外の大規模店舗に集客され、売上が落ちている。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・現在の受注は、前年と比べるとやや良くなっているが、百貨店、量販店向けの一般商品の動きが悪くなっている。
		鉄鋼業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・需要家からは価格下降圧力がかかっているが、メーカー・流通は販売価格の維持に努めており、綱引きが続いている。
		電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・半導体関連の動きに変化はなく、忙しい状態は続いている。半導体大手の動きは少し鈍くなっているが、半導体装置関連は相変わらず忙しい。
		電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・取引先からの話はあるが、なかなか契約に結び付かない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・業種によってばらつきはあるが、天候に恵まれたせいもあり、販売関係は良かった。5月は連休の関係もあり比較的悪かったが、今月は若干持ち直している。ただ、特に大きく良くなったという実感はない。
	やや悪くなっている	繊維工業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・百貨店で、バーゲンを行って値下げするのが早すぎる。定価で売る期間が非常に短く、納期が非常に厳しくなっている。
	悪くなっている			
雇用 関連	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		人材派遣会社(社員)	採用者数の動き	・企業側からの採用人事に関して、積極的に社員化することを含めた問い合わせが多くなっている。特に営業職については、男女問わず募集を増やしている企業が多い。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・大型商業施設のオープンに伴い、人の動きが活発になっている。2,000人の雇用が発生し、玉突き的に欠員が発生しているため、商業施設周辺地域の求人が増加している。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規求職者数が前年比32%減少している。

	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・求職者数が減少傾向にあり、就職件数が着実に伸びている。就職件数そのものが伸びていることから、景気は良くなっている。また企業からの紹介の督促等も増加している。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・第1四半期の求人数は、前年同期比で2けた増であった。売上実績は同10%増で推移している。
変わらない			
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-